

障害者差別に関する相談事例や合理的配慮事例の報告について

1 障害者差別に関する相談事例（令和4年度分）

相談者	相談内容	対 応
知的障がい	○結婚相談所に申し込みをした際に「障がいがあるため、相手を見つけることが難しい」と言われたため、申し込みを断念した	○市が相談所に対して、事実確認をするとともに、差別解消法について周知を依頼 ○相談所からは、誰に対しても同様の対応をしているが、障害者差別をしないこと、入会手続き時にサポートなどの配慮をすることを相談員に周知徹底すると回答あり
難病	○無意識に大声を発する症状があるため、ヘルプマークをつけているが、大型店舗の警備員から、他の利用客に迷惑をかける場合や不審な点がある場合は、声掛けをされると言われた。また、入店時に申し出てほしいと言われた	○市から大型店舗に対して、事実確認をするとともに、障がい者理解やヘルプマークの周知、差別解消法について周知を依頼 ○大型店舗からは、一部、見解の相違があるが、職員に対して、障がい者への理解とヘルプマークの周知を改めて行うこと、今後は警備員が不要な声掛けをしないようにすると回答あり

2 合理的配慮事例（令和4年度報告分）

- (1) 調査結果・・・13 所属から 39 件の事例報告（内容が重複するものを含む）
 (2) 合理的配慮事例（報告事例のうち主なもの）

場面	障がい種別	主 な 事 例 内 容
受付・窓口	聴覚障がい	○マスクで口元が見えず説明が分からないと申し出があったため、マスクを外して対応するとともに、筆談により補足した。
	精神・発達障がい	○筆談で意思を伝えたいと申し出があったため、筆談でゆっくりと分かりやすい言葉で伝えた。
	肢体不自由	○松葉づえを使用している来庁者に対し、窓口カウンターへの移動を促さず、待合の椅子席で書類の記載から証明書の交付までの一連の事務を対応した。
移動・誘導	肢体不自由	○エレベータ等への誘導を行うとともに、段差がある箇所では危険防止のための介助を行った。
情報提供	知的障がい	○申請手続きの案内文に、文字だけではなくイラストを多用し、提出書類は何か、どの部分をコピーすればよいかなど、分かりやすく案内することに努めた。
	視覚障がい	○視覚障がいの方へ送付する郵送物には、封筒に市章を打刻して発送した。
講演・イベント	聴覚障がい	○手話通訳者及び要約筆記者を配置し、情報保障席を設けた。
設備・環境	視覚障がい	○視覚障がい者用誘導ブロックの貼替時に、当事者の方に意見を伺い、弱視の方にも分かる色に変更するなどの対応をした。